

(2) 成果と課題

① 第2学年 算数「数のしくみを調べよう～100より大きい数～」

大きな数の意味や表し方を学習する導入において、既習事項を確認する場を自力解決の前に取り入れ、児童自身が活用する既習事項を明らかにして課題解決に取り組む活動を行った。

成果は7点であった。㊦西横野小スタンダードの「めあて」「見通し」「自力解決」「集団解決」「まとめ」「振り返り」による学習の流れが児童にしっかり身に付けられた。

㊧既習事項を確認する活動と課題解決の見通しをもたせる活動により児童主体の学習が展開できた。㊨1年時の既習である10ずつまとめる活動を活用したことにより短時間で既習事項の確認ができた。㊩教師が専門性を生かし、課題把握の場面で自作による資料をパソコンを使って提示したことにより児童の興味・関心が高められた。㊪集団解決の場面での書画カメラの使用により興味・関心が高められた。㊫板書の文字数や行数と児童のノートが一致して児童はノートを取りやすかった。㊬課題解決では色分けをして数えたことにより数が数えやすくなった。

課題は2点であった。㊭集団解決の場面でのペア学習のねらいを明確にすること。㊮ノートを取る活動と教師の発問に答える活動を整理し、低学年における活動を精選することであった。

② 第3学年 算数「ぼうグラフと表」

身近な事象を棒グラフに表す学習において、前時の学習で学んだ棒グラフに必要な読むポイント（縦と横の軸、グラフの項目の配列、原点と目盛りや単位、表題）を児童が確認する場を設定し、見通しをもって課題解決に取り組むとともに、集団解決の場で児童が描いた棒グラフをわかりやすさ、見やすさについて比較・検討する活動を行った。

成果は6点であった。㊦西横野小スタンダードの「めあて」「見通し」「自力解決」「集団解決」「まとめ」「振り返り」による学習の流れが児童にしっかり身に付けられた。㊧前時の学習の「まとめ」を活用して本時の学習を展開したことにより児童が主体的に学習に取り組めた。㊨集団解決の場面での書画カメラの使用により児童の発表意欲が高まり、比較・検討を容易にしたり、児童の細かな気づきを生かしたりすることができた。㊩児童の棒グラフを書画カメラに記憶させて提示したことによりどの児童もノートが手元にあって学習がスムーズにできた。㊫棒グラフを描く際に、青色の蛍光ペンで描き、赤色の蛍光ペンで訂正したことによりスムーズに棒グラフが描けた。



2年 算数「数のしくみを調べよう」



3年 算数「ぼうグラフと表」

㊦板書の文字数や行数と子どものノートが一致していて児童はノートを取りやすかった。㊧「振り返り」の場面において書く内容が決まっていることによりスムーズに描けた。

課題は3点であった。㊨見通しをもつ場面で前時の「まとめ（棒グラフを読むポイント）」を押さえたが、棒グラフを描くポイントまでしっかり押さえること。㊩ノートに書く内容が多く、また、グラフ作成に取りかかるまでの時間がかかり過ぎたので活動を精選すること。㊪集団解決の場面で見通しを基に棒グラフを検討することであった。

㊫ 第4学年 算数「広さの表し方を考えよう」

長方形を組み合わせた図形の面積の求め方で見通しをもたせる場面において、求積に必要な既習事項を問いかけたり、長方形にするために必要な補助線の引き方を話し合わせたりする活動を行った。

成果は6点であった。㊬西横野小スタンダードの「めあて」「見通し」「自力解決」「集団解決」「まとめ」「振り返り」による学習の流れが児童にしっかり身に付いた。㊭学習ルールの徹底により、児童は集中して課題に取り組み、よく考えていた。㊮課題提示を工夫したことにより、児童が関心をもって学習に取り組んだ。㊯既習事項を確認したり、見通しをもつ場を設定したりしたことにより、本時の課題解決への取りかかりがよかった。㊰ノート指導の工夫として、複数ある図を色分けし、式も同じ色で区別しながら板書したことにより、図と式を対応させながら考えることができた。㊱集団解決の場面での書画カメラの使用により興味・関心が高められた。



課題は5点であった。

4年 算数「広さの表し方を考えよう」

㊲めあてを児童の言葉で設定すると、児童の意欲的な学びをさらに促すことができた。㊳導入において既習事項の確認や見通しを立てる活動は取り入れたが、既習の図形問題との相違点を考える場がなく、課題の焦点化が十分でなかったため、問題把握と見通しが十分でなかった。また、キーワードの提示で課題解決への焦点化を図るとよかった。㊴集団解決の場面で、児童が意見交換したときに、相互に認め合ったり、問い返したりできるようになると、児童がもっと主体的に取り組めたり、思考を深めたりできた。㊵児童の実態に合った問題提示やヒントの提示、自力解決、集団解決の場を設定し、時間配分を工夫するとよかった。㊶本時の学習の中で児童が考えの変容を自ら意識できるようにするため、ノートに書いたことを消さないよう指導を徹底するとよい。

④ 第5学年 理科「物のとけ方」

「水に溶けると物はなくなるのか」という問題を把握する場面において、写真や児童のノートを見ることで、既習事項を振り返る活動を取り入れて、物の溶け方について見通し（予想）を立てて調べる活動を行った。

成果は5点であった。⑦継続的なノート指導の充実により、児童はノートが分かりやすい字でしっかり書けた。④西横野小スタンダードの

予想について理由をつけてしっかり書けた。⑧教師と支援員との机間支援が児童の自力解決を促すよい手立てであった。⑨役割分担として支援員に板書を任せたことで授業が円滑に展開できた。④水溶液を作るために使用した振るタイプの密閉容器は実験を適切に進められた。

課題は4点であった。⑦児童が予想を発表し合いながら問題解決に取り組むと、主体的な学びをさらに広げることができた。④導入で立てた予想を「重さ」に視点をしぼると、児童は考えやすくなり、また、実験方法を考えさせる時間にゆとりができた。⑨集団解決の場面で、子どもの意見をもっと発表させるとよかった。④実験を精選して、時間内で解決できるようにするとよかった。



5年 算数「物のとけ方」